

他団体と学ぶ



(特定非営利活動法人) **とよかわ子育てネット おんぶぎつね こん**

おんぶぎつね こんは、(特非)とよかわ子育てネットのめざす、『子どもと子育てに優しい街づくり』を支える活動として2009年春に創設した託児支援部門。講演会・講座等の受講、個人的用事、心のリフレッシュに対応。みらいでは昨年からの講座時の託児を依頼。昨年は、みらいの託児システム研究委員会が中心となり団体託児のありかた・豊川市の託児システムなどについて話し合った。子育て期の人たちの社会参加意欲・向上心を支援する、講座開設や託児システムの、充実を図るためにさらなる密な連携をとっていきたい。

7/24 参加 10名 ウィズ豊川

東三河家族の会

東三河家族の会は、薬物問題を抱える家族のための会。

活動：相談・交流・家族回復プログラム『ナラノン12のステップ』・関係機関との連携・他団体との交流
日本の薬物乱用者：260~300万人(50人に1人) まだ困っている家族がいる。

薬物：覚せい剤・大麻・シンナー 違法薬物。処方薬、鎮痛剤・風邪薬等の処方薬、アルコール、タバコ
逮捕者：愛知県1000人/年 東三河100人/年 豊川30人/年 豊橋50人/年

再犯率50% 収監10万人のうち4割は覚せい剤(刑務所費用1人40万円/月)

『薬物依存症は病気』 要治療 回復施設(日本には民間のダルクしかない。全国50カ所。豊橋に三河ダルク)
(まだ、医療・行政・地域の連携体制が十分でない)

薬物問題は、みらいの、女性のための委員会・かぞくの未来を考える委員会・支えあいの社会をめざす委員会に関係する。薬物問題の理解を深めどんな協力体制ができるかを検討したい。

7/15 参加 15名 ウィズ豊川

(特定非営利活動法人) **どんぐりの会**

どんぐりの会は、知的障害者の働く場をつくる目的でH6年に設立。地域活動支援センター「どんぐり工房」(御油)

「どんぐり茶屋あかり」(赤坂)で就労支援活動 パン・クッキー・せんべいの製造販売。

「どんぐり茶屋あかり」のメニュー・・・うどん・そば・炒飯・カレー・コーヒー・紅茶・ココア

めざすもの・・・【自分で決める自分の暮らし】【ノーマライゼーションの思想が実現できるまちづくり】

ノーマライゼーションとは、一週間の普通のリズム、自由と希望を持ち周りの人もそれを認め、尊重してくれる、自分にあった仕事を自分で決める、平均的経済水準を保障される、自分で自由に使えるお金があって必要なものや好きなものが買える、普通の地域の普通の家に住む、地域の人たちの中にとけこむ。

みらい総会でのどんぐりの会ハンドベル演奏は恒例となり楽しみにしている人が多い。みらいが資金づくりでコーヒー販売できるのは、どんぐりの会の支えがあってこそ。今後も手をつないでいきたい。

10/21 参加 5名 豊川市文化会館

報告 : 10/7・10/21 豊川市男女共同参画基本計画策定委員会(井上)
11/9・11/26 豊川市男女共同参画審議会(基本計画案審議)傍聴(6名)

予定 : 12/16 12月定例会 豊川市男女共同参画基本計画パブリックコメント案素案検討
1/20 1月定例会 豊川市男女共同参画基本計画パブリックコメント案検討 (1月末日提出)
1/29 ロジカルシンキング講座 10:00~16:00 ウィズ豊川 3500円 託児あり 昼食持参

DVの理解を深める講座



第1回(愛知県DV出前講座)

9/16 講師: かけこみ女性センターあいちスタッフ

参加 25名 ウィズ豊川

第2回 11/18

講師: ウィメンズカウンセリング名古屋YWC Aスタッフ

参加 17名 桜ヶ丘ミュージアム

【一緒に考えよう】

*次の項目で、ドメスティックバイオレンスと思われるものに、チェックをつけてください。

- 1. 彼の注文に少しでも疑問を示すと、すぐに不機嫌になる。
- 2. うまくいかないことがあると、すぐに私のせいにする。
- 3. 私が一人で外出すると、しょっちゅう携帯に電話してくる。
- 4. 私が友人や両親と交際するのを嫌がる。
- 5. 私の帰宅が遅くなると怒る。
- 6. 私に「バカ」とか「能無し」とか言う。
- 7. いつも彼の機嫌をそこねないように気を配っている。
- 8. 彼に怒られるのが嫌で、言うことを聞いてしまう。
- 9. ついつい彼好みの洋服を選んでしまう。
- 10. 人前でも平気で私の欠点を指摘する。
- 11. 彼と会話がしたくても、非難されたり、無視されたりする。
- 12. 私のちょっとしたしぐさにもうるさく文句を言う。
- 13. 彼がいないと、なぜかホッとする。
- 14. 彼が癪癪を起こすと、壁を殴ったり、物を投げたりする。
- 15. 彼に平手打ちにされたことがある。
- 16. 私を叩いた後は、急に優しくなり、私に謝ってくる。
- 17. 彼を怒らせないために、あきらめたことがいろいろある。
- 18. 彼は、私の気分などおかまいなしにセックスを求める。

『なぜ男は暴力を選ぶのか』沼崎一郎著 かもがわブックレットより抜粋

DV(ドメスティックバイオレンス)とは・・・

力と支配。親密な関係にある男性(夫・恋人・婚約者・同棲相手・元夫・元恋人)から女性を支配し思い通りにしようとする暴力行為

若年層のデートDVが問題化

内閣府H20調査: 女性の33.2%がDV被害者

暴力行為・・・

身体的(なぐる・蹴る・ものを投げる)

精神的(怒声・無視・侮辱・行動規制・携帯チェック)

経済的(生活費渡さない・勤労妨害・家計チェック)

性的(性行為や中絶の強要・避妊非協力)

誰もが被害者にも加害者にもなり得る

暴力の影響・・・

逃れられない恐怖感が植えつけられ、毎日安心して暮らせない。

DV防止法(配偶者からの暴力および被害者の保護に関する法律)・・・

2001年制定 2004年 2007年改正

DVが起こる社会的背景

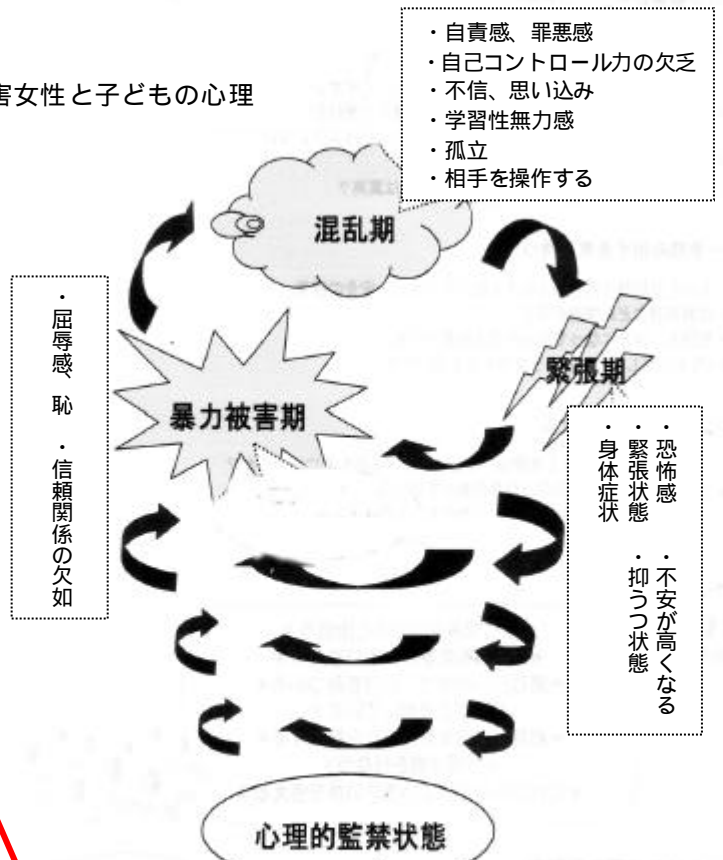
暴力のきっかけ
暴力はお酒やドラッグのせい?
・暴力は予測できない

偏ったジェンダー観
a. 性別役割へのこだわり
・「怒り」に対する意識、態度の差
・「男である」「女である」に対する意識、態度の差
・異性に対する意識、態度の差
b. 社会から期待される家族愛
・「家族」「カップル」で1つという社会的単位
・家族は皆で助け合うもの=家族幻想
・違いを認め合うことの困難

暴力が容認される社会構造
a. 暴力はいけないもの?
・悪いことをしたものに暴力で制裁してもよい=勸善懲惡
・力のあるものが力のないものを支配する=武力行使、侵略、戦争は必要悪
b. ストレスフルな競争社会
・終身雇用制、年功序列制の崩壊



被害女性と子どもの心理



逃げるのが困難

- ・「どこまでも追いかけてくるのでは?」「さらに怒られるのでは?」
- ・「いつか変わるのではないか」という期待
- ・「どうやって生活していけばいいのか」という不安
- ・「子どものために」という忍耐
- ・「バツイチになってしまう」という世間体